

特集 2 学ぶ×働く移民女性たち

高山ユキ・山崎パチャラー・戎香里菜

はじめに

本特集は、ソフィア・オープン・リサーチ・ウィーク 2019 のイベントのひとつとして、3人の移民女性をゲストに迎えて開催したシンポジウムの記録である。

3人のゲスト・スピーカーは、みずからが移民の当事者として、さまざまな支援を受けながら日本語を学び、働いてきた。そして現在は移民支援の現場にいる。移民自身を担い手とする支援活動はいまだ多くないが、いかにして、それが可能になったのかを語ってもらった。

経験を語らなければ、社会にその声は届かない。当事者が語ってはじめて、それまで見えていなかった、というよりは見えないように封じ込められていた社会的現実が姿を現すことがある。社会学者ドロシー・スミスやブラック・フェミニズムの論者パトリシア・ヒル・コリンズが指摘するように、客体化された知は、「男性」に見えている世界観で構成されており、「女性」の生活世界での経験とは乖離がある。つまり、男性に見えている世界を説明する概念は、女性の経験にフィットしない。そのため当事者以外が観察し記述する女性たちの経験は、女性たち自身の経験からかけ離れたものになってしまう。女性が生活世界で経験していることが他者によって語られたとき、自分の経験なのに、まるで自分のことではなくなってしまう。

移民女性の場合、「女性」の生活世界のリアリティに、「男性」の経験に基づいた問題の解釈があてはまらないのはもちろん、「日本人」からみた問題の解釈も、自分たちの経験にぴったりこないだろう。それでも、彼女たちが日本語で語ることで、日本人が自明視する世界観は変更を迫られるだろう。

(稲葉奈々子)

シンポジウム概要

日時：2019年11月16日

場所：上智大学

主催：グローバル・コンサーン研究所

協力：移住者と連帯する全国ネットワーク